

100城には百通りの歴史浪漫あり! 浜松の根底に流れる山城魂。

政令指定都市における 指定史跡(国・県・市)の城跡数

浜松と同じような政令指定都市と比べても、指定史跡の城跡数は群を抜いている。ご覧のとおり2位の岡山市の1.5倍、3位の新潟市の2倍以上が存在している。ちなみに指定史跡とは、歴史上または学術上で価値の高いものとして国や県、市などに指定された遺跡のことをいう。



高根城

浜松にはなんと
16城

数や形に全国が注目する浜松の城

"浜松の城"と言われて、浜松城は誰もが思い浮かべるけれど、まさか城跡数が100を超えると想像する人が、どれだけいるだろう。11月に浜松で全国山城サミットが開催されることもあり、日本中が浜松の城に注目している。私たち浜松市民も今一度、地元の城跡を見つめ直してみよう。

戦国期には、武士たちの攻防の舞台となり、今川氏、武田氏、豊臣氏、徳川氏と、そうそうたる戦国武将たちの勢力の推移によって、築城・改修が繰り返されていった。つまり、私たちが見ている城跡は、平面的な一時代ではなく、幾重にも時代背景を積み重ねて、現在に残されている。このことを知ると、実に浪漫がかき立てられる。

さらにこうした山城は、南北朝から戦国期には、武士たちの攻防の舞台となり、今川氏、武田氏、豊臣氏、徳川氏と、そうそうたる戦国武将たちの勢力の推移によって、築城・改修が繰り返されていった。つまり、私たちが見ている城跡は、平面的な一時代ではなく、幾重にも時代背景を積み重ねて、現在に残されている。このことを知ると、実に浪漫がかき立てられる。

一般的に「城」と聞くと、豪壮な天守閣がそびえる建物を想像する人が多いかもしれないが、そもそも城とは、敵に攻め込まれた場合に防衛拠点となる構造物のこと。日本では、石垣や土塁を備えた城の起源は古代までさかのぼる。

山城からの発展

浜松市内では、北遠地域を中心に、尾根伝いの地形を活かした「山城」が多いのが特徴。中世、地域で権力を握っていた領主が、支配を浸透させるために築いた屋敷を拠点に、やがて戦いに備えた砦が築かれていった。急峻な山の頂には、樹木を伐採し眼下を一望できる物見櫓を設置。小屋掛け程度の建物を建て、柵や土塁などをめぐらした。造りそのものは簡素とはいえ、いざ危険が迫れば山中へ隠れることができ、地形そのものが要塞であり城であったことが分かる。

全国に名をさせた戦国武将たちは、この浜松を、交通や経済の要所として、是非とも手中に収めておきたい、と注目していたに違いない。周知のごとく、遠江を治めた徳川家康は、その後、全国統一を果たした。浜松城は代々、徳川家とゆかりの深い譜代大名が守り、歴代城主には幕府の要職に登用された者も多いことから「出世城」と呼ばれるようになった。

浜松の城は、数だけでなく、配置にも特徴がある。主軸となる城を中心に、その周辺にも小城や砦が配置され、地域内で城のネットワークが形成されているところは、全国的にも珍しいという。例えば、現在の天竜区春野町地域に勢力を誇った天野氏の居城、犬居城には、さらに防御を強めるため、周囲に樽山城や勝坂城などの支城が配置されている。そして、それぞれの城を守っているのが土地の領主たちであり、彼らは戦となれば命を懸けて戦う地侍との絆を深め、厚みのある支城ネットワークを形成していた。たとえ小さなエリアでも、しっかりとその土地に、地域力を根付かせていたことが、城数の多さに表れているといってもいいだろう。

地域力が根付いていた浜松

奥山城、奥山館、氣賀近藤氏陣屋、今城、堀川城、刑部城、刑部砦、三岳城、井伊谷城、上野砦、谷津砦、金指近藤氏陣屋、大平城、欠下城(大菩薩山)、御屋敷、松下屋敷(頭陀寺城)、中村屋敷、志津城、堀江城、陣屋、大屋金太夫屋敷、尾奈砦、野地城、佐久城、堂崎居館、日比沢城、千頭峯城、土居城、大谷陣屋、長岩砦、中千頭砦、岡本居館、浜崎居館、尾崎居館、尾崎居館(太月寺)、本坂居館



浜松城



二ノ城



犬居城



犬居城



犬居城



犬居城



犬居城



犬居城

